

# EAGL News

東京農工大学 グローバル教育院 ニュースレター

Jun 1st, 2018 No.1

第1号 2018年6月1日

## グローバル教育院に期待する

学長 大野弘幸

平成30年4月いよいよグローバル教育院がスタートした。企業と一緒に研究をすることが理工系大学の最大の目標であるという風潮がまかり通ってしまいそうな今日であるが、大学では学生の教育が最も重要なタスクである。大学は社会に輩出する卒業生の質の保証をしなくてはならない。そのためにも学部教育をはじめとする教育全般について、各学府ではそれぞれの教員が共通認識のもとで学生を教え育てることが求められる。しかし、単なる知識量ではITにかなわない。教員は学生たちに「自分なりの考え方」ができるように様々なことを学ばせる必要がある。一方、研究は「必死で考える」という自らを鍛える重要な過程であり、厳しい研究生生活を通じて多くのことを学び、自立できるリーダーが育って行く。教育と研究を両輪として学生を育ててゆこう。「農工大の卒業生は創造性が高く、基礎知識に基づいた自分の意見をしっかりと持っている」というブランドを維持し、さらに高めるためにも、グローバル教育院が主体的に活動し、全学の教職員とともに一体となって学生を本気で育てる機運が高まることを願う。

## グローバル教育院を一緒に作りましょう

グローバル教育院長(理事(教育担当)・副学長) 梅田倫弘



今年の桜は満開が早く、卒業式のころには散り始め、新年度が始まる頃には葉桜を愛でるまでになりました。そんな中、4月4日にグローバル教育院の発足式があり、桜の若葉と同じように小さな組織が芽吹きました。本学に教育系の新組織が発足するのは、大学教育センターが設置されて以来ですので、14年ぶりと言うことになります。発足式には両研究院からも多くの参加者があり、学長のご挨拶、教育院長から設置趣旨と今後の活動、そして専任教員の決意表明があり、その後、ささやか

ではありますが、懇親会が行われ、教育院の発足を祝っていただきました。

グローバル教育院（以下、教育院）の設立の目的は、すでに両研究院の教授会でもご説明していますので、ここでは、教育院が対応すべき以下の6つの諸課題を示すだけにとどめておきます。

1. 研究大学として必要な教育活動の構築
2. 新たな教養教育の構築と教育の質的保証システムの確立
3. 初中等教育における英語教育の抜本的改革への対応
4. 乱立する留学系プログラムの整理再編と国際教育交流活動の推進
5. 長期低落傾向の入試倍率の抜本的対策
6. 入試出題体制の再構築、入試改革への対応

これらの諸課題を正面から受け止め、その対応と解決施策を実行していくために、この2ヶ月をかけて教育院内の体制作りをしてきました。

まずは、教育院業務の仕分けと担当の決定です。各業務では、それぞれ主および副担当を決め、専任教員で構成された3つのグループ内で業務情報がシェアされるようにしました。これにより、旧来組織でありがただった特定の教員に業務を任せるのではな

く、主担当が責任を持つものの従担当教員も協力して同じ目標を達成する考え方を導入しています。更に、これらの多数の業務は、グループ会議においてグループ長がすべてを把握し、進捗管理、部会への審議依頼等を進めていきます。新しく組織を立ち上げるには、構成メンバーの意識の摺り合わせと情報共有が欠かせません。そのため、教員会議、グループ会議、グループ長会議等を定期的に行っています。

以上のようにして教育院内の体制を固めた後、次のアプローチは教育院と両学部のインターフェイスの役割を担う部会の立ち上げです。部会は、規則上も本学にとって非常に重要な位置付けとなっています。教育院の設置の成否は、これにかかっていると言っても良いでしょう。と言うのも、部会の諸活動は本学の3大課題である国際交流、教養教育、入試制度の大学における意思決定を担う制度設計になっているからです。部会では、各グループからの様々な情報分析をもとに両学部との協議、意見交換を進めながら様々な施策を学部および関係委員会等に提言をしていくこととなります。したがって、部会を円滑に立ち上げるのは、両学部からの兼務教員の推薦にかかっていると言っても良いかと思います。教育院の目的、活動を両学部に説明、ご理解いただきながら3つの部会のスムーズな立ち上げを進めている最中です。このニュースレターが皆さまのお手元に届く頃には部会の立ち上げの目処がたっていればと期待しています。

以上、現在の教育院内の組織状況について簡単にご紹介しました。昨年の4月から1年かけて新組織設置の準備をしてきましたが、学部・学府発展のための教育院であることを教育院の構成員全員が共有し、本学の発展に尽力したいと思います。どうか教育院を皆さんと一緒に作っていく気持ちを共有していただき、厳しくも実のある叱咤激励をいただければ御幸甚です。

## 海外リエゾングループ

### グループ長 教授・野間竜男

海外リエゾングループ長を仰せつかりました。本グループでは本学のグローバル化をミッションとして、学生の派遣・受け入れ対応から姉妹校との連携まで多様な事業に携わります。

私の目標は学生のグローバルな流動化を促進させることです。短期から長期まで、様々な目的や興味に対応した留学プログラムを本学学生に提供し、あわせて本学での高レベルな教育研究に興味を持つ外国人留学生への魅力的なプログラムを整備したいと思います。皆様のご支援ご協力を切にお願いする次第です。



### 准教授・田崎敦子

海外リエゾングループの田崎敦子です。グローバル教育院では、本グループのミッションの下で、教育・キャンパスのグローバル化を進めていきたいと思っています。そのために、学生がそれぞれのキャリアプランに合わせて留学の機会を得られるように、派遣・受け入れプログラムを推進し、学内においても日本人学生と多様な言語・文化を背景にした留学生が共に学び、活動できる環境を整えていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



### 准教授・堀切友紀子

海外リエゾングループにてコーディネーターを担当する堀切友紀子です。現在は主に東南アジアの国々との学生交流プログラムを担当しています。留学を考えている学生、留学が決まり準備をしている学生、留学中の学生、留学から帰ってきた学生にとっての充実した体験をサポートしていきたいと思っています。

また、本学に来ている留学生との交流や、留学経験者同士のネットワーク、その他のプログラムとの交流などを通して、「一度行けば終わり」の留学から、「続いていく留学」へと繋がられたらと思います。どうぞ宜しくお願いします。

### 准教授・横森佳世

海外リエゾングループで工学部の主に留学・受入のコーディネーターをしております。国際協力NGOやODA政府開発援助で17年ほど発展途上国にて国際支援に従事してきた経験から、学生のみなさんが世界へ飛び出していく後押しをし、様々な国や地域からの留学生を受け入れ、みなさんと一緒になって、地球を舞台に活躍する人材の育成を目指します。趣味は音楽鑑賞と野菜作り、ガーデニング、登山、ダイビングで、人が好き、地球が大好きな、二男・一女の母です。



## グローバル教養教育グループ

### グループ長(副院長・農学研究院評議員) 教授・千年 篤

本年度、副院長ならびグローバル教養教育グループ長を務めております。梅田院長をサポートし、教育院の土台づくりを進めて行く所存です。

本グループは、旧大教センターと旧国際センターで蓄積されてきた教育資源と経験を有機的に活用しながら、本学におけるグローバル教養教育の展開に資する企画・運営支援に取り組んでまいります。このミッションのもと、多様な業務に取り組まれる本グループの3名の教員をサポートしていくことが私の役割であると考えています。



### 准教授・本郷智子

グローバル教養教育グループの本郷です。留学生に対する日本語教育を専門としています。新しい組織では、理系分野で活躍する学生の皆さんが「教養ある科学者」になることを支援したいと思っています。具体的には、クリティカルで論理的な表現法を身につけること、多様性の中から母語や自文化を再発見する目を持ち創造性につなげること、新たな世界やものの考え方に出会う経験から知識や理解を深めることなどのサポートです。どうぞよろしくお願いいたします。



### 准教授・岩田陽子

グローバル教養教育グループにて、主に大学院教育支援をメインミッションとしています。特にグローバル・プロフェッショナル・プログラムでは、グローバル社会で日本のプレゼンスを高めることに貢献し得るリーダー養成の支援だけでなく、博士後期進学への動機づけになるような支援を積極的に展開して参りたいと思います。

常に最善を尽くし、質の高い成果を創出できるよう尽力いたしますので、ぜひ、引き続き、ご支援、ご指導賜りますようお願い申し上げます。



### 専任講師・安村友紀

グローバル教養教育グループとアドミッション・専門基礎教育グループに所属し、主に教養教育や学内アンケート、e-learningに関わる業務を担当いたします。

植物分子生物学の研究者として長く活動してきましたが、2年前に農工大に着任して教育や教育環境の設計という仕事に出会えました。先生方のイメージされる教育が実現できるようなサポートができたらと思っております。緑ゆたかな両キャンパスにとっても愛着を感じております。どうぞよろしくお願いいたします。



## アドミッション・専門基礎教育グループ

### グループ長 教授・藤井恒人

アドミッション・専門基礎教育グループ長を担当します。よろしくお願いいたします。

2020年度の「大学入学共通テスト」の実施が近づいてきました。入試改革、指導要領の改訂など、正確な情報を迅速に入手し、わかりやすくご提供できるようにしていきます。

またIGSプログラム、グローバルサイエンスキャンパスなど、高大接続プログラムでは皆様のご支援が必須です。これまで以上のご協力をよろしくお願いいたします。



### 准教授・伊藤夏実

人と人との出会いやつながりは、私たちの日々の生活の原動力であり、後の人生を豊かにしてくれます。このグローバル教育院では、部局との連携、高大、地域を含む学内外、そして海外との連携を構築していくことがミッションの一つだと考えています。

教育改革、入試改革の渦の中で、大学で学ぶ意義とは何か、自身にも問いかけながら、農工大に行ってみよう！農工大に来てよかった！という人が一人でも増えるよう、畑を耕す気持ちで様々な活動の種を蒔きたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



### <授業のこころみ>

## 復習テスト・講義アンケートへのGoogleフォームの利用

もほぼ全員がスマホを所有しているようです。このような学生のIT環境に適応した講義でのツールとしてスマホを利用する試みが様々な大学で行われています。スマホの講義での利用には功罪があり、いろいろな意見があると思いますが、まずは試行して見る価値はありそうです。

さて、講義の冒頭で前回の振り返りをする事で、受講生の記憶を呼び覚まし1週間前の状態に戻し講義の理解を助けることが行われています。その際、講義の冒頭に小問題を提示できれば効率的です。しかしながら、紙ベースでは配布に時間を取られますし、採点時間もありません。そこで、最近、本学で利用が進んでいるGoogleアプリケーションの中で、Googleフォーム（以下、フォーム）に着目しました。このフォームは、既に様々なイベントの評価アンケートに使われていますので、利用された方も多いのではないのでしょうか。

ここで、フォームの特徴を簡単に紹介しましょう。質問項目としては、択一問題、自由記述問題などがあり、解答も設定できますので、採点も自動的に行われます。また、受講生もその解答結果をすぐに知ることができますので、理解の深まりの手助けになります。さらに、フォームの特徴は解答結果をエクセル表としてダウンロードできることです。ですから、自由記述として氏名や学籍番号を入れるよう設定しておけば、出欠の代わりにもなります。その他、細かい設定もできますので、使い勝手は良さそうです。

最近のITツールの必須アイテムはスマホでしょう。今年度の新入生アンケートからも80%以上の学生が大学の情報を得たツールがスマホと回答しています。また、実際に講義で聞いて

ただ、問題となるのが、フォームが登録されているアドレスを学生に提示する方法です。前述のように最近の学生のスマホ保有率は100%ですので、それに着目することにしました。フォームのアドレスを予め短縮形でコピーし、そのデータをQRコード変換サイトでQRコードを生成して画像データとして保存します。その画像をパワーポイントに貼り付けプロジェクターで投影して提示し、受講生はスマホのカメラにあるQRコードリーダーで読めばアクセスできます。写真は私の講義での利用例です。この方法で行えば、容易にアクセスできるようです。2回ほど私の講義（3年次120名受講）で使いましたが、2度目には学生も慣れてすぐにフォームにアクセスして解答し、前回の学習内容を確認出来るようです。この他、フォームを使って講義の最後には授業内容の理解度を確認するアンケートや質問項目を無記名で行っています。授業終了直後に分かりますので、次の授業改善にも役立てています。

フォームとスマホの利用は、余り手間も掛けず、学生にも負担にならない方法かもしれません。今後も試行して課題などを検討したいと思います。

(教育院長 梅田倫弘)



### H30.4発足後の主な活動

- ▶ 本学の種々の留学プログラムを一度に照会する合同派遣留学説明会を開催しました。府中(4/11~13)：約150名、小金井(5/17&23)：約250名と予想以上の数多くの学生さんが参加しました。後学期も開催する予定です。



府中図書館にて



小金井L1321講義室にて

- ▶ 4月12日（木）13日（金）「日本学術振興会特別研究員制度・獲得のコツ」を開催しました。
- ▶ 英語力強化のためのe-learning教材運用を開始しました。ぜひ各研究室でご利用いただければ幸いです。海外留学する学生の事前準備やTOEIC・TOEFLなどのスコアアップにも活用できます。

### これからの主な予定

- ▶ 留学ポータルサイトの立ち上げ
- ▶ 各派遣・受入プログラムの運営
- ▶ GPP(グローバルプロフェッショナルプログラム)の運営
- ▶ 学生生活実態調査
- ▶ 進学説明会の開催
- ▶ 新規採択されたGSC(グローバルサイエンスキャンパス)の運営



**EAGL**とは・・・

グローバル教育院の英語名称：  
Organization for the Advancement of  
**E**ducation **a**nd **G**lobal **L**earningより  
とった略称です。教育面での本学の飛躍を  
けん引する鷲のような存在になりたいとい  
う願いもあります。

発行元：東京農工大学グローバル教育院  
府中キャンパス

〒183-8509東京都府中市幸町3-5-8

小金井キャンパス

〒184-8588東京都小金井市中町2-24-16